Japan Evangelical Lutheran Association

JELA NEWS

JELAニュース　第6号　2005年　4月15日発行　発行責任者　ローウェル・グリテベック

日本福音ルーテル社団　〒150-0013　東京都渋谷区恵比寿1-20-26　Tel.03-3447-1521　Fax.03-3447-1523　jela@jela.or.jp　www.jela.or.jp

社会に出ていき　手をさしのべる

「お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが乾いていたときに飲ませ、
旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれた。」
マタイによる福音書　第25章35～36節

JELAとJELC、つぎつぎに共同事業を展開

日本福音ルーテル社団（JELA）と日本福音ルーテル教会（JELC）は従来からさまざまな形で協力関係を築いてきましたが、昨年12月26日に発生したスマトラ沖地震・インド洋大津波災害に対してはいち早く連携し、3月5日に被災地支援のチャリティコンサートを開催するとともに、事前の共同調査にもとづき2月28日から3月7日にかけてはタイ・カオラックの被災現場に10名のボランティアを派遣し、瓦礫処理等の奉仕にあたりました。後者の両団体の募集に応じた半数がルーテル教会以外の教派の教会員であり、有意義な働きの場の提供が注目されました。インド実施したワークキャンプは初めての試みでしたが、これも共同調査によって計画された義足づくりのワークキャンプに予想を上回る10名の成人男女が応募し、内容的にもたいへん充実したキャンプとなりました。社会の必要を満たすために、JELAとJELCは今後も一致して積極的にプログラムを展開していきます。どうか共に祈り、参加することで私たちの働きを支えてください。（詳しい報告は次号掲載予定）

この号にはこんな記事が

第2回世界の子ども支援チャリティコンサート　2

難民支援
喜びと悲しみと―難民支援のなかで―　石谷孝子　3

ジェラミッションセンター完成　4
ステンドグラスについて　5

宣教師の働き
歴史をとおして神様の愛と恵みを知る　ティモシー・マッケンジー　6
アジア子ども支援
ともに過ごした豊かな時間　野澤美幸　7
ブラジル子ども支援
明るいブラジルの人々　石丸哲平　7

お知らせ・献金者一覧　8

第2回「世界の子ども支援チャリティコンサート」

テッパー親子のすてきな演奏と楽しい話を今年もお楽しみください

JELAと日本福音ルーテル教会・世界宣教委員会は昨年に続き、世界の子どもたちを支援するチャリティコンサートを日本各地で開催します。昨年好評いただいたカナダのテッパー親子が今年も来日し、ヴァイオリンとピアノによる美しい演奏をくりひろげます。クラシック、賛美歌、ポピュラーの名曲から、昨年とは異なるプログラムで巡演します。収益のすべては、餓えや病気に苦しむ世界の子どもたちの現状を改善し、その将来に希望を与えるために用います。多数お誘い合わせの上、会場にお越しください。来場が難しい方も、折り込みの郵便振替用紙に「チャリティコンサート」と明記し、子どもたちへの愛の献金をお送りいただければ幸いです。

●テーマ
Helping Children in Need
餓えや病気に苦しむ子どもたちに愛と希望を！

●主催
日本福音ルーテル社団／日本福音ルーテル教会・世界宣教委員会

●協賛団体（以下は昨年協賛いただいた団体です。順不同。一部を除き現在交渉中。）
株式会社ハリファックスアソシエイツ／前田建設工業株式会社／株式会社西村建築設計事務所／リフォームイケ／精文堂印刷株式会社／小林商事株式会社／株式会社ケン・コーポレーション／シュローダー投信投資顧問株式会社／野村證券株式会社／日本ルーテル教団／ルーテル教会「共に生きる」

●演奏者
・シーグフリード・テッパー氏
（Mr. Siegfried Tepper）
コンサートピアニスト／作曲家／音楽伝道者。米国インディアナ州バトラー大学にてピアノ・パフォーマンスの修士号取得。ドイツの複数のオペラハウスで研鑽を積んだ後、カナダのバーリントンにあるモーツアルト室内管弦楽団の音楽監督兼指揮者を14年間勤める。複数の大学で教鞭をとるかたわら、ラジオ・テレビにも多数出演。キリスト教界においてはユースリーダーとして、あるいはコーラスやオーケストラの指導者、教師、メッセンジャーとして活躍。

・クリスター・テッパー氏
（Mr. Christer Tepper）
ヴァイオリニスト／シーグフリードさんの息子。4歳でヴァイオリン演奏を一般に披露。奨学金を得てニューヨーク州ロチェスターにあるイーストマン音楽大学で学んだ後、ドイツへ留学し、さらにイタリアでも学びを深める。コンクールでの受賞歴多数。ラジオとテレビへの出演のかたわら複数のCDをリリース。1994年にはハミルトン交響楽団のソリストとして好評を博す。コンサートホール、教会、学校、集会等における演奏経験は400回を超える。

1997年以降は親子二人で毎年カナダ全域、米国、ドイツ、アジアを訪問し、各地で霊に満ちあふれた素晴らしい演奏と証しのコンサートを展開。すさんだ世の中に希望と励ましを運ぶ、神様の愛の器として用いられている。つい最近、新しいCDをリリースした。

●演奏予定曲目　*以下の中から演奏します。プログラムは会場により一部異なります。

ルクレール／ヴァイオリン・ソナタから
バッハ／無伴奏ヴァイオリン・ソナタから
モーツアルト／ヴァイオリン・ソナタK.296
ベートーヴェン／ヴァイオリン・ソナタおよびヴァイオリン協奏曲から
クライスラー／小品集
サラサーテ／「パブロのホタ」ほか
ショパン／ワルツ、練習曲等から
ショスタコーヴィッチ／ロマンツァ
S・ジョップリン／ラグタイム・ミュージック（パールマン編曲）
J・ウィリアムス／映画『シンドラーのリスト』主題曲

聖歌・賛美歌

●入場料
入場無料　席上自由献金

●献金の用途
JELC連帯献金／スマトラ沖地震・インド洋津波で親をなくした子供の支援（インド、インドネシア等）／本の寄贈（カンボジア）／HIV・AIDS撲滅運動の支援（タイ）／食事と予防接種の提供（ブラジル）／小学校教師への経済的支援（バングラデシュ）／アジア人難民の子どもの支援（米国）／子どものホスピス支援（日本）／子どもをなくした家族のカウンセリング支援（日本）
*以上のいずれか、またはすべてのところに捧げます。

●問い合わせ総合窓口
日本福音ルーテル社団（JELA）
150-13 東京都渋谷区恵比寿1-20-26
電話：03-3447-1521／ファックス：03-3447-1523／E-mail：jela@jela.or.jp

コンサート日程と会場

●5月14日（土）午後7時　日本福音ルーテル栄光教会・藤枝礼拝所
●5月15日（日）午後3時　日本福音ルーテル大阪教会
●5月18日（水）午後7時　日本福音ルーテル京都教会
●5月19日（木）午後7時　日本福音ルーテル広島教会
●5月20日（金）午後7時　日本福音ルーテル博多教会
●5月21日（土）午後3時　日本福音ルーテル神水教会
●5月22日（日）午後3時　日本福音ルーテル本郷教会

*時刻は開演時間。開場はその30分前です

難民支援

JELAは国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)をはじめ、さまざまな団体と協力しながら難民支援を行っています。今回は社会福祉法人・日本国際社会事業団とJELAとの連携について、同事業団の右谷さんにご紹介いただきます。

喜びと悲しみと
難民支援のなかでー

社会福祉法人　日本国際社会事業団
ソーシャルワーカー

右谷孝子

私がソーシャルワーカー(社会福祉指導員)として日本国際社会事業団(ISSJ::International Social Service Japan)でインドシナ難民の定住相談員になったのを機に難民および難民申請者と関わるようになって20年近くなります。その間、多くの出会いがありました。日本に庇護を求めて上陸した難民申請者、難民として認定された人や特別在留許可を得た人々はさまざまな困難に直面します。仕事や住居探し、経済的困窮、日本語の習得、在留資格の取得、病院や学校探しなどソーシャルワーカーはクライアント(福祉サービスを受ける人)が抱えている問題の解決を目指して、関係機関の協力を得て支援活動をします。その道は決して平坦ではありませんが、堅い壁にぶつかりながら針穴を見出した時の喜び・達成感をクライアントと共に味わいます。また、制約が多すぎ身動きが出来ない時などクライアントの重い、動かない表情の陰にクライアントの怒り、苦しみそして悲しみを察し, 彼らに共感しながら、解決の機会を待ちます。

ISSJは施設を持たずに相談に応じる社会福祉法人として1959年(昭和34年)に厚生労働省より認可された民間機関です。主な活動は2ケ国以上に関わる社会福祉、特に子どもとその家族の問題についてソーシャルワーカーが相談援助を行い、問題解決にあたっています。活動内容は国際養子縁組、家族の再会、無国籍児の問題、子どもの送還、国際結婚・離婚に関わる問題、国内の難民および難民申請者への相談、混血児やインドシナ難民の日本社会定住のための適応援助の促進などです。

ジェラハウス(JELAが運営する難民申請者用住宅)にISSJではこれまで10人が入居させていただきました。ジェラハウスは難民申請者にとっても支援する私どもにとっても大変有難い存在です。その上、家賃や光熱費が無料、夜間に管理人が常駐しています。家主、入居者、支援者の各人がその役割を守ることでシェルター(一時避難所)としての機能が充分に活用できるシステムになっていると思います。

入居させていただいた中で忘れられない例を紹介させていただきます。Aさんは妻のBさんと子ども１人を連れて来日し、難民申請をしました。子どもが増え家族４人で暮らしていましたが、ある日、超過滞在者としてAさんは入国管理センターに収監され、妻子だけが仮放免許可を得ました。子どもが未就学児童であることを知ったUNHCRよりISSJは子どもの就学支援の依頼を受けました。早速、ワーカーはその支援をしました。Bさんは途方にくれていました。Bさんの国では女性が仕事をして収入を得るという習慣は無く、彼女は自国の習慣を頑なに守り続けることで、夫の留守の間、子どもを守り、自分の不安感や絶望感を支えていたのではないかと想像しました。Bさんは無収入となり、住んでいた社宅を出なければならなくなりました。彼女は日本に来てもほとんど家の中だけで暮らしていましたので、日本語も片言で、彼女自身で家探しは困難でした。ワーカーは関係機関と連絡して入居一時金の要らない安価な家を探しはじめましたが、なかなか見つからず困っていました。明渡しの３日前にやっとジェラハウスの家族部屋への入居が決まりました。ルーテル社団の前で子どもたちが大きなリュックを背負いBさんが数個の荷物を抱えて、疲れきった不安げな表情で立っている時の姿と、部屋に入ってほっと一安心した時の喜びの姿は印象的でした。 収監が２年半におよび、仮放免されて家族一緒に暮らせるようになっても、夫Aさんはうつ状態が続き、なかなか自立できず、結局３年近くジェラハウスのお世話になりました。その間、子どもや妻の入院、学校や保育園のことなど、Aさん一家にはいろいろなことがありました。多くの関係機関の支援に支えられ、特にルーテル社団の森川さんの静かな見守りのなかで、このクライアントを支援出来ましたことに感謝いたします。Aさんたちが日本に上陸してよかったと思える日が一日でも早く来ることを願ってやみません。

ジェラ・ミッションセンターが恵比寿に完成！　新しいビジョンに向かって出

ジェラ・ミッション・センターについて

ＪＥＬＡ事務局長
ローウェル・グリテベック

日本福音ルーテル社団（JELA)を代表し、本日の竣工祝福式にご臨席いただいた皆様心よりお礼を申し上げます。私たちは感謝こめて、きょうここにジェラ・ミッション・センターを神様にお捧げします。このビルの完成は新しいいのちの始まりであり、ＪＥＬＡにとっての新たな旅立ちを意味します。

本日は、ジェラ・ミッション・センター・ビルの完成にご尽力いただいた多くの方々感謝を捧げるときでもあります。日本福音ーテル教会、米国福音ルーテル教会、ＪＥＬＡの関係者や支援者の皆様、そして設計をお願いした西村様、施工に携わっていただいた前田建設様、建築プロジェクト全般コンサルティングをしてくださったハリアックスの皆様に感謝いたします。さらに、これらのすべてを備えてくださった神様に感謝を覚えます。

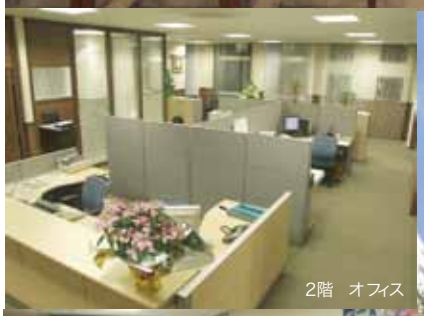
ジェラ・ミッション・センターの構想は３年前に立てられました。建築にあたっては、三つのことを念頭におきました。第一は、社会に貢献しようとするＪＥＬＡの事業を支る資金源となるレンタル・マンションをビ内に設けること、第二は、将来長く使える、十分な広さと機能を備えたＪＥＬＡ事務室設けること、第三は、ＪＥＬＡとそれ以外の団体のさまざまな公益プログラムを支援すための多目的ホールを設けること、でした

多目的ホールの計画に際しては、ＪＥＬＡの使命を表現したステンドグラスを設置、日本の多くの人々にＪＥＬＡの働きの目的知っていただけるようにしました。多目的ールの具体的な用途としては、チャリテコンサート、芸術作品の展示、講演会、ハーブ療法教室などの会場、そして日曜の英語礼の会堂として利用することを考えています

多目的ホールのステンドグラスは、米国ワシントン州シアトル在住のクリスチャン画家リチャード・ケイメラー氏と４人のチームが制作しました。図柄を決めるところから、ステンドグラスに最終的に仕上げるまでに年の歳月を要しました

ケイメラー氏は日本と米国において、本の著名なクリスチャン版画家・渡辺禎雄氏ともに学び、作品を発表してきました。すので、多目的ホールのステンドグラスは、渡辺氏の影響が色濃く現れているかと存ます。

1階　多目的ホール


2階　オフィス

2階　会議室

2階　制作室

3-10階　ジェラ恵比寿レジデンス

ジェラ・ミッション・センター1 階は約100名を収容できる多目的ホールです。正面および右サイドのステンドグラスが、利用する人々の心を鎮めてくれる落ち着いた空間です。礼拝や講演会、小編成のコンサートなど、交通アクセスの便利さと相まって様々な使い方が考えられます。照明も雰囲気のあるダウンライトと明るい蛍光灯を目的に応じて切り替えることができまたスタンドマイク、ワイヤレスマイク、VTR、DVD、CD MD、インターネット接続などＡＶシステムも完備しています。スライディングウォールで仕切れば、会議室とギャラリーになり、多様な利用ができます。監視カメラをはじめセキュリティには万全を期し、ビル内に居住する方々をも含めて環境の安全を守ります

2階はJELA事務室として使用いたします。会議室および1 階ホールでの様子をカメラによってモニターできる映像・音声システムを備えています。礼拝時の保育室やコンサートの控え室などの利用に便利な機能です

制作室はコンピュータによるグラフィックデザイン、映像編集が可能です。大型ポスターの出力、録音室でのアフレコなどができる設備を備えて、プロ並みの品質のメディアが手軽に制作できる環境を整えました

動が始まりました。

ホールのステンドグラスについて　リチャード・ケイメラー

多目的ホール正面のステンドグラス（写真上）のテーマは神様による天地創造です。富士山、田畑、桜、そして北斎の版画にある波をあしらった図柄からわかるように、日本も神様が人間におくってくださった素晴らしい創造の賜物の一部です。明るい青は地球をおおう海を示します。そして、地球以外にも太陽、月、星といった神様の創造物が描かれています。

地球の中央にはルーテル教会を象徴するバラの花が描かれています。真ん中の十字架は、人間の生命とあらゆる被造物の中心である神様を表現しています。十字架こそ、神様がご自分の独り子、イエス・キリストを犠牲にして人類にお示しになった至上の愛そのものです。このステンドグラスは、ヨハネによる福音書３章１６節に「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」と記された神様の愛を示すものです。

右の窓の 6 枚の図柄（写真下左より）は、マタイによる福音書 25 章 35 節～ 40 節「あなたがたは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれた。」を描写したものです。それぞれの上部の窓に描かれた絵は、人間に対する神様の愛を示します。下の大きい絵は、クリスチャンである私たちの、他の人々に対する憐れみの行為を示します。そしてまた、私たちが他者に助けの手を差しのべることは、キリストご自身に対してそれをすることでもあります。つまり、他の人々に向けた私たちの慈悲の行為は、イエス・キリストご自身への私たちの愛の行いとなるのです。

それぞれの絵は関連があり、上下で一対となっています。私たちがキリストを理解し、それを受け入れるとき、神様が私たちをとおして働いてくださり、助けの必要な人々に手をさしのべる行為が実現するからです。6 枚のパネルに登場する白い手は、私たちをとおして働かれる神様の憐れみの業を描いたものです。

ステンドグラスの制作者について

ジェラ・ミッション・センターのステンドグラスはリチャード・ケイメラー氏がデザインしました。ルーテル教会員の氏は、米国ワシントン州シアトル市の東にあるレベンウォース北部の丘に建つ Grunewald Guild（米国有数のクリスチャン芸術家のための学校）の創立者であり、運営責任者です。芸術を通して自身の信仰を表現する氏の作品は、米国のみならず世界中で知られています。雪をかぶった山の素晴らしい姿、きれいな水、黄金色の牧草地に囲まれて生活するケイメラー氏は、それらの息吹を作品に取り込んでいます。氏の作品は、日本の著名な版画家・渡辺禎雄氏とともに学んだ経験、友情にも影響を受けています。

材料の選定、切り出し、配置と組み合わせといったステンドグラス制作の実際的な部分は、同じくレベンウォース在住のジンマーマン夫妻を含む４人のチームが担当しました。４人は１年以上の歳月をかけ、ジェラ・ミッション・センターのステンドグラスを完成しました。ジンマーマン夫妻は２０年以上前にシルバームーン・スタジオを設立し、ステンドグラスの制作とガラス工芸に取り組んでいます。

宣教師の働き

歴史をとおして神様の愛と恵みを知る

ルーテル学院大学／日本ルーテル神学校専任講師　ティモシー・マッケンジー

宣教師という働きは面白い面が沢山あります。異なる言葉と文化を通して、神の不思議な全ての民と国を含む宣教の業に参加することが出来ます。私の宣教師の歩みにも色々な面白い働きが与えられました。20年前の1985年に日本に来てから本郷学生センターで青年伝道を担当する短期宣教師（J3）として働きました。その後、牧師として山口県にある宇部教会と厚狭教会で働きました。そして昨年の4月からルーテル学院大学と日本ルーテル神学校の歴史神学を担当する教員として働き始めました。22年前に初めて大学生として来日した時に自分の人生の半分ぐらいが日本で神の宣教の内に働くことになるとは想像できませんでした。20年間にわたって日本福音ルーテル教会の中で色々な働きに参加ができ、神様がどれほど日本を愛しているかを体験できたことは大変嬉しいことです。

6年前に新しい道が開かれました。日本福音ルーテル教会と米国福音ルーテル教会の寛大な計らいによってシカゴ・ルーテル神学校大学院の博士課程に入ることが出来ました。教会に頼まれた専門は近現代の歴史神学でした。一般的に言えば「歴史神学」は教会史として教えられていますが、目的はキリスト教の歴史に生じた教義と教理の発展とその意義を分析する学問です。一般大学にある思想史みたいな学問と考えられますが、歴史神学はキリストの教会の思想（神学）を歴史的に考える学問です。

！ キリスト教に対する禁止令の高札
1868年（明治元年）5月に明治政府が改めてキリスト教に対する禁止令を発布した（同時に同政府が神仏分離令によって廃仏毀釈を起こした）。

シカゴ・ルーテル神学校大学院では教会の各時代について研究が可能でしたが、私にとって特別な意味をもっている分野と時代は日本のキリスト教史の明治時代です。問題はシカゴ・ルーテル神学校にはこの分野と時代の専門家はいないということでした。しかし、この時代に対する研究を可能にする為に不思議な出会いが与えられました。シカゴ・ルーテル神学校の博士課程の一つの特徴は、大学院生が隣接するシカゴ大学大学院で授業を取らなければ成らないということでした。このシカゴ大学の日本史学科に、私の研究課題に関心をもって下さったケテラー教授がいました。この先生は日本の宗教史に対して深い知識と関心をもっておられますので、私の卒業論文を指導する一人となって下さったのです。

”『聖書之研究』
内村鑑三が主筆として（1900年創刊）出版した月刊誌。

私の主な研究は明治後期に行われた「三教会同」（1912年）という問題でした。「三教会同」というのは明治政府の内務省によって開かれた会議とその為に爆発した論争です。明治政府は1910年に起こった大逆事件と社会主義の運動に対して大変な危険を感じたため、それを抑えるのに宗教の道徳的な力を借りようとしたのです。幾つかのスローガン（「国民道徳の振興」、「皇運を扶翼」、「国運の伸張」など）の下に宗派神道、仏教とキリスト教の社会的なリーダーシップと力を借りようとしました。一般的に言えば、「三教会同」には日本のキリスト教史における二つの意義があります。その一つは、この会議をもってキリスト教は初めて明治政府に公認されたということです。二つ目は、この時からキリスト教は戦前の政府と曖昧な関係に入ったということです（しかし政府と協力しないクリスチャンの声もありました）。この時代から、いわゆる近代日本の3つの宗教は神道、仏教とキリスト教（神仏基三教）という表現が用いられるようになりました。このような表現をみると一つの大切な質問が現れます。それは、日本の社会と宗教界の中でキリスト教のメッセージと存在の意義は何であるかということ、キリスト教は福音を述べ伝えながら、日本人の精神的及び宗教的なニーズをどう満たせば良いのかという質問です。

私は自分の授業の中で学生に明治時代の日本の神学者による文献を読むことを要求しています。理由はこの時代の前向きな考え方と強い信仰の証しを知ってほしいからです。内村鑑三の平和論といわゆるキリスト教的愛国心は今読んでも新鮮な響きがまだ残っています。海老名弾正、小崎弘道、植村正久、沢山保羅、井深梶之助、元田作之進などの明治キリスト教の初代クリスチャンについて学生に紹介することは、学生が現代の教会をより良く理解するための助けになると思います。色々な角度から日本のキリスト教史を考えることは意味があるのです。

歴史の学びは現代社会と現代キリスト教の様々な活動を理解するために大切な役割があります。人間はいつも過去の歴史的な出来事と共に存在しているから、歴史を大切に学ぶことは必要だと思います。教会が過去について研究する目的の一つは、神が今現代にどのように働かれているかを知るということです。各時代の問題は全く新しい問題ではなく、昔に蒔かれた問題の種がそれぞれの時代に芽吹き、社会に影響を及ぼしているのです。私の希望はルーテル学院大学と神学校の学生が日本のキリスト教の歴史を学びながら、神様の恵みと愛は現代にも生きていることを感じることが出来るようになることです。

#英語 版の諸資料
小崎弘道著『七十年の回顧』（英語版、1933年）
新渡戸稲造著『武士道』（英文、1899年）
Cary, Otis, A History of Christianity in Japan (1909)

アジア子ども支援（神様の子どもたち）

ともに過ごした豊かな時間　　野澤美幸

ジャムケッドでのボランティア活動を終えて今思うことは、CRHP（総合地域保健プロジェクト）は想像以上に偉大なプロジェクトであり、それをサポートしているJELAの活動は本当にすばらしいものであるということです。そんなすばらしいJELAの活動に短期間ではありましたが参加できたことを大変感謝しております。

私は主に看護師としてCRHPの病院で活動をすることが多かったのですが、時々CRHPの幼稚園へ子どもたちに会いに行くこともありました。幼稚園は朝9時半から始まり、約30名の子どもたちは元気いっぱいに色々な遊具で遊び回ります。遊具には頑丈そうな三輪車が約10台、縄跳び、ボールなどがありました。朝食の時間（10時半頃）になるとみんな一斉に手を洗い、円になって食事が配られるのを待ちます。子どもたちの食欲は私が想像していたよりもずっと旺盛でお代りをしている子どもたちがたくさんいました。子どもたちが毎日食べる食事は、私の食事（滞在していたトレーニングセンターで毎日用意して頂いた食事）とほぼ同じもので、とても美味しかったです。子どもたちが大きな口で食事を頬張る姿を見て、なんだかとても嬉しくなったのを今でも覚えています。

CRHPのスタッフの一人に子どもたちの健康と教育について訊ねたところ、「CRHPの学校に来る子どもたちはジャムケッドの中でも貧困の中の貧困にある子どもたちです。まだ多くの問題はありますが、栄養価の高い食事と勉強できる環境を貧困の子どもたちが持っていることは本当に大きな変化です。JELAのサポートは子どもたちの成長にとても役立っています。」と話してくれました。今回のボランティア活動を始める前はJELAの活動内容もジャムケッドの存在も無知に等しい私でしたが、実際に現地で多くのことを経験してみて、このスタッフの言葉の重みをずっしりと感じました。

看護師としての私の病院での主な活動は、手術後の患者さんや脳梗塞、重症火傷を負った患者さんに対する清潔ケアと理学療法の提供、人工呼吸器装着の患者さんに対する定期的な痰の吸引と口腔ケアの提供、そして分娩の介助や新生児の沐浴などを提供させてもらいました。CRHPのナースの医療技術は優れており、患者さんの日常のお世話や介助をするというよりは医師の助手としての役割が大きいように思えました。ジャムケッドと日本での看護師の在り方が違うことに最初は少々戸惑いましたが、現地の医師ショバさんの温かな助言を受けながら患者さんに必要なケアを思いを込めて日々提供させてもらいました。

私がジャムケッド滞在中に体調を崩すことなく安全に活動を続けることができたのは、JELAの皆様の手厚いご支援があったからです。本当にどうもありがとうございました。

インド・ボランティアの野澤美幸さんが、3ヶ月の奉仕を終え2004年9月中旬に帰国しました。お祈りを感謝します。野澤さんは看護師資格を活かした奉仕をされましたが、特殊技能がなくても、どなたでもボランティアとして歓迎します。インド、ブラジル等でのボランティア奉仕をご希望の方はJELAまでお問合せください。インドには現在、福田光利兄（八王子教会）が滞在中です。

ブラジル子ども支援

明るいブラジルの人々　　石丸哲平（清水教会）

Bom Dia!　ブラジルに来て早五ヶ月、こちらの生活にも大分慣れてきました。さる1月には60人以上のファベーラの方々に誕生日を祝ってもらいました。収入は少なく、家庭の問題も抱え、正に貧困な生活を強いられている方たちです。しかし、何故でしょう。いつも明るく笑っていて、表情からは暗さを微塵も感じさせません。自殺など日本の暗いニュースもこちらで話題になっていますが、ブラジル人の心の豊かさを日本も見習うべきかなと思います。また、南米教会には礼拝前の教会学校に、いつも60人近い子供達がやってきます。明るく元気な彼らを見ていると、希望のある未来を感じます。現在は4ヶ月の語学研修も終わり、2月中旬からヘコンシリアサンで奉仕活動をしています。折り紙、漢字、漫画などこちらでは日本文化は一つのファッションとして注目されています。子供達の興味も高く、仕事初日に100人以上の子供達の腕にカタカナで彼らの名前をサインしました。今はまだ仕事も始まったばかりで、一緒に遊びながら折り紙やちょっとした日本語を教える毎日です。もう少ししたら僕専門の時間、グループを設けてくれるそうですので楽しみしています。また機会がありましたら、報告していきたいと思いますので、楽しみにしていて下さい。

２年間のブラジルボランティアとしてＪＥＬＡが支援する地域に滞在している石丸兄から最新レポートが届きました。今後も不定期に便りを紹介していきます。

お知らせ

短期宣教師用アパート JELA新屋敷レジデンス完成

米国から来日して九州ルーテル学院と九州学院で数年間英語を教え、熊本地区の日本福音ルーテル教会でも奉仕に携わる短期宣教師（J3）の共同住宅が熊本市新屋敷に完成しました。3階建てのしゃれたビルです。J3の個人住宅としてのみならず、熊本の青少年がここに集い、宣教師の人間的なやさしさや神様の福音にふれる場として用いられることを願います。

JELAのホームページについて

JELAのホームページをご覧になった方は、いつも中身が同じなので不思議に思われているかもしれません。じつは数年前に公開以来、一度も更新していないのです。今年からは少しずつでも定期的に更新できるようにし、中身を充実させていきたく思っています。次回のニュースレターをお届けするころに衣替えができればよいのですが。なお、現在のままでもJELAという組織の歴史や事業の概要はわかりますので、ご利用ください。ただし、ボランティア派遣その他の申込用紙が一部変更されていますので、申し込みにさしてはご面倒でも一度JELA事務所にご連絡くださり、新しい用紙をご請求ください。

献金者一覧

アクストン・ケビン／浅見正一・君江／尼嶋治／荒井悌次郎・和子／有坂／池谷節子／池田富雄／石井康夫／石澤とし子／石田浩子／市ヶ谷教会／市ヶ谷教会婦人会／伊東節子／井上握子／岩間雪子／ヴァンデルタング・エリ子／ウォータマン／梅田満枝／梅津トク子／浦和ルーテル学院／江澤妙子／NRK関東地区婦人の集い／大分教会／大野久子／大野英雄／岡本澄子／荻窪邦昭／乙守ミチ子／柿沢純江／柏原美津子／勝原忠明・洋子／加藤俊輔／兼岩恵美子／上窪松子／川上範夫／川島由香／希望教会／京谷信代／京都教会／鵠沼めぐみルーテル教会／釧路教会／窪田_子／窪田春枝／恵泉幼稚園／甲府教会女性会／古財克成／古財悦子／小坂敦子／小宮俊作／西条ルーテル幼稚園／斉藤正恵／酒井恵美子／佐藤操／佐藤美代子／佐藤玲子／三五康子／重野信之／芝田美穂子／島宗正見／清水誉至子／霜尾閑子／周田裕芳／白髭市十郎／尻無浜紀美子／杉山昭男・紘子／杉浦りえ／鈴木春江／鈴木やす／鈴木連三／関口佳子／高澤由紀子／高津和子／高橋孝／高橋寿子／高橋トヨ子／高橋要子／高橋佳子／竹下公生・香代子／田中美紗子／谷口恭教／玉名教会／玉名ルーテル幼稚園／千葉教会／辻昭子／辻佳澄／堤重敏／寺澤節雄・陽子／田園調布ルーテル幼稚園／天羽憲／戸田修司／都南教会教会学校／友田優子／豊島順子／鳥居和代／中川浩之／中島康二／長嶋久美子／中村孝治・敬子／中村雍子／名古屋めぐみ教会／西一郎／西恵三・知恵／西川寿一／西立野園子／西村晴道／仁保成子／野田マサ子／萩雅子／萩原耕介／箱崎教会女性の会／橋本勢津子／早瀬康平／原田恵美／パーソン・デビッド&奈穂子／ハルボーセン美智代／東山義夫／兵藤真理子／平島徳蔵／平林洋子／廣幸朝子／深川育子／福田陽子／藤井浩／藤橋日出子／古川文江／保谷教会／細倉道子／本郷学生センター／本多美奈子／三嶋昭子／水野豊子／南節子／稔台教会婦人会／宮坂恵喜子／宮澤美紀江／迎恒夫／村上三枝／村上裕子／門司幼稚園／森保宏／森幸子／森洋子／森涼子／八坂由貴子／矢田恵子／山崎恵美子／山崎克子／山口美子／山下いづみ／柳堀恭子／雪谷教会／横井洋子／吉田佳代／ルーテル教会「共に生きる」集い／和田智恵子／渡辺映子／渡辺高伸／他に匿名2名

Augustana Lutheran Church／Brager, Beverly／Brekke, Chris／Dale, Kenneth／Eimon, Dalene／Elk Horn Lutheran Church／Ericson, Wlbert／Kleven, Mae／Livingston, Jerry／The Lutheran Church of St. Philip the Deacon／Olson, Norman／Paynesville Lutheran Church／Rasmussen, Peter／Trinity Evangelical Lutheran Church

（2004年10月1日～2005年2月28日、敬称

編集後記

米国ワークキャンプへの青少年の派遣は今年で5年目を迎えます。初年度は3人しか応募がありませんでしたが、現在ではルーテル教会の多くの若者の知るところとなり、毎年15人前後が応募してきます。その目的は、神様の深い愛を体験してもらい、その愛を自分の教会や周りの人々に分かち合い・実践してくれる人材を育成することにあります。2月に実施したインド・ワークキャンプのビジョンも同じです。東京や熊本にJELAの新ビルが完成したいま、働きの原点に立ち返り、それらを始めたときに何を第一に考えたのか、見つめ直したいと思います（M）

JELA
Japan Evangelical Lutheran Association
日本福音ルーテル社団
〒150-0013　東京都渋谷区恵比寿1-20-26
Tel. 03-3447-1521　Fax.03-3447-1523　jela@jela.or.jp　www.jela.or.jp

再生紙使用